

研究だより

2019年9月5日

NO.14

よつば2組担任

生活に生かせる国語・算数の取り組み

<K男さんの学習状況>

- ①授業中は、粘り強く課題に取り組むことができる。
- ②国語では、自分の経験したことや文章を読んで感想を書くときに、長い文章を書くことができるようになった。漢字は、地名や住所など、身の回りにあるものを読んだり書いたりすることが身についてきている。説明文や物語などの長い文章を積極的に読み、わかったことや印象に残ったことを記述することもできる。現在、3年生程度の学力である。
- ③話す意欲が高く、時事や宇宙などの知識が豊富であるが、助詞が曖昧になる場面が見られる。学習時に指摘されると、こだわることもある。
- ④算数では、3年生までの教科書の内容のほとんどをおさえてきている。和差積商の計算は得意であり、わり算やかけ算を使用する応用問題も解くことができるようになっている。

前期は、4月をレディネス把握の時期とし、5月ごろから本格的に学習単元を構成してきました。

以下には、国語に絞って記載します。大きな柱は3つです。K男さんの興味を探りながら、教科書や児童書などをもとにプリントをいくつか作りました。

①漢字

書けると良い漢字、書けなくとも読めると良い漢字などをリストアップしました。書けると良いものは、「算数、酒田市、駅、お弁当、住所、郵便番号、両親、市役所、福島」など、教科や地名、修学旅行で使いそうな漢字です。「算数や家庭科、住所」など、何度もつまずいた漢字もありましたが、おおむね書けるようになりました。

「鶴岡市、致道博物館、湯殿山」など、庄内に関係のある漢字の読みもかなりクリアできました。

②再生

3年の教科書から説明文をピックアップし、最初は内容理解や接続詞などの補充問題を作成。しかし、難なく解いていました。ここで、文章の捉えから切り替え、一文または二文を記憶し、ノートに書く活動を入れました。まず落語の本を用いて、楽しく覚えられるようにし、クリアしたら教科書などの基本文を扱いました。一文がやっとだったのが、三文程度まで覚えられるようになりました。

③感想

4月当初、感想を書く時に短い印象を受け、その後もあまり様子は変わらずにいました。そこで、文章を読んだら、思いついたことをどんどん箇条書きにしていく作戦にしました。繰り返し練習すると、分量・内容ともにレベルアップし、少し書くスピードも上がりました。

常々「特別支援は子どもが教科書だよ。」という言葉を目にします。子どもの反応を見ながら教材をつくることは、楽しくもあり、難しくもあります。1対1での授業が多い今、K男さんの学習負荷も考慮しながら進めているところです。

あと半年、卒業までに私ができることは何か、日々考え、実践していきたいです。

